

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立開成小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

#### ■ 調査結果及び考察について

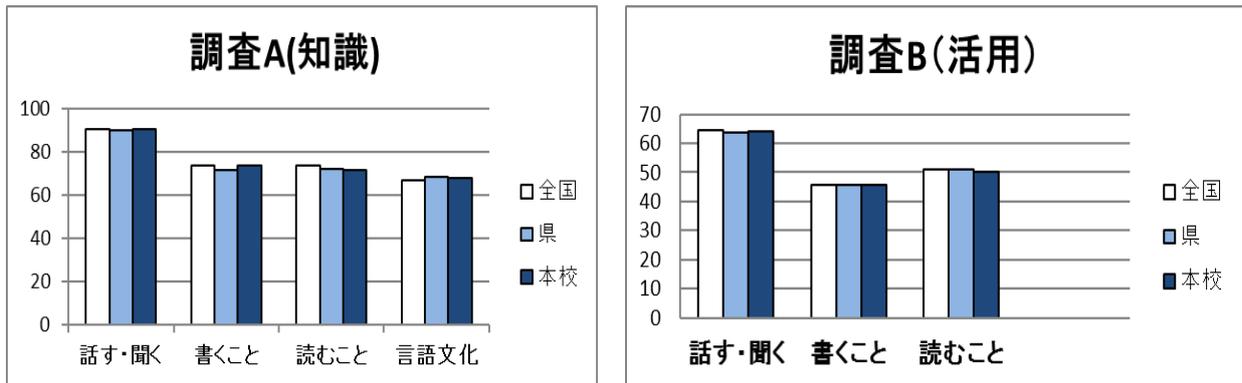
全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国・県正答率との比較



調査A(知識)全体についての本校正答率は、71%で、全国や県と同等である。領域別に見ると、調査Aでは、「話す・聞く」「書くこと」が、全国・県より若干上、「言語文化」については、全国より1ポイント程度上回っている。また、「読むこと」については、調査A(知識)で、全国より2.3、県より0.4ポイント下回っている。調査B(活用)については、全国より1.7ポイント下回っているものの昨年度より大幅に改善している。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話す問題や話し合いの参加者として質問の意図を捉える問題は、全国・県を上回っているが、計画的に話し合うために、司会の役割について捉える問題は、全国より9ポイント、県より5.8ポイント下回っている。日々の授業において児童同士の話し合い活動をより多く取り入れ、指導を充実させる必要がある。

##### 書く

・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題では、全国や県平均を6～7ポイント以上上回っている。反対に、推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える問題は、全国や県平均より3～5ポイント下回っており、書いた文章を互いに見せ合うなど児童同士が学び合い意欲的に取り組む書く活動の工夫が必要である。

##### 読む

・目的に応じて必要な情報を捉える問題や目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む問題や俳句の情景を捉える問題は、全国や県平均と同程度であるが、登場人物の心情について、情景描写をもとに捉える問題は、全国や県平均より3～5ポイント下回っている。叙述を根拠として場面の情景や登場人物の心情を自分の言葉で書く等、授業改善が必要である。

##### 言語文化

・慣用句の意味理解や敬語の使用に関する問題は、全国・県平均を大きく上回っている。漢字を文中で正しく書く問題では、漢字によって正答率に差がある。短文づくりや日記で習った漢字を使うなどより実践的な漢字指導が必要となる。

#### (3) 学力向上のための取り組み

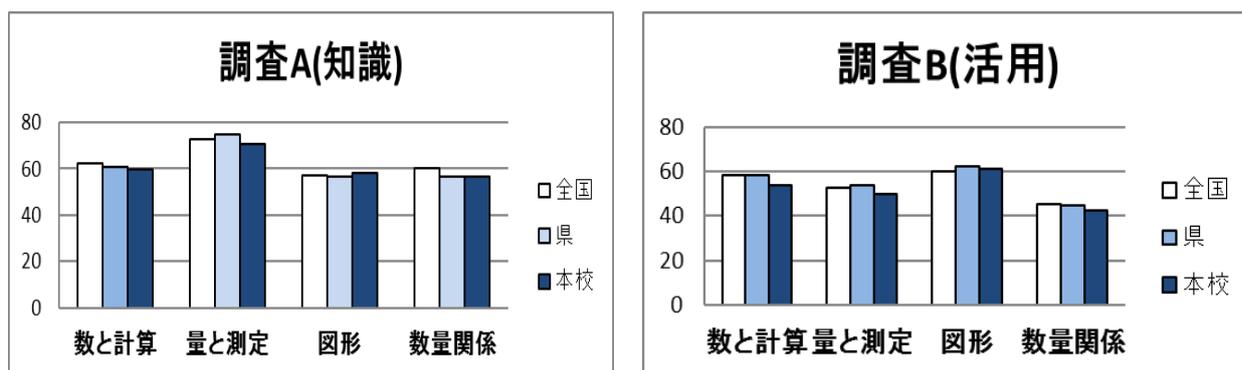
- 学校では、読み語り活動を月曜日に設定し、本に親しむ児童の育成をめざしています。朝のスキルタイム(火)では、音読と視写、慣用句等に触れさせる活動を取り入れるなどしています。
- 日々の授業では、毎時間のめあてを明確にし、自分の考えを「伝え合う」活動を取り入れ、主体的に学び合う児童の育成を目指しています。【授業づくりステップの活用等】

- ご家庭では、物語の場面の様子や登場人物の気持ちの変化などを考えながら読むことに挑戦させてください。読解力や語彙力の向上に役立つと思います。また、分からない言葉があれば、辞書を使って調べる学習などの「自学」にも積極的に取り組ませてみてください。

## 2 算数

### (1) 結果

### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問う調査Aでは、本校正答率は、全国や県平均をやや下回っている。領域別に見ると、「図形」は、全国や県平均より2ポイント近く上回っているが、「数と計算」は、県平均より1ポイント、「数量関係」は、県平均と同等であるが、全国平均より4ポイント近く下回っている。「量と測定」は、全国や県平均より2～4ポイント下回っている。調査Bでは、「図形」領域のみが、全国や県平均と同等である他は、「数量関係」で2～3ポイント、「数と計算」「量と測定」の2領域で、4ポイント以上下回る結果となったが、昨年度より改善している。

### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・調査Aでは、小数の除法の意味を問う問題は、全国や県平均より10ポイント以上高く、よくできている。逆に、針金1mの重さを求める式を選ぶ問題で、全国・県平均より10ポイント低く、調査Bでも、折り紙の枚数が足りる理由を明確にして記述する問題が、16ポイント低い。今後も児童自身が自ら学び思考しながら問題解決を図る授業の工夫が必要である。

#### 量と測定

・調査Aでは、角度についての問題は、ほぼ全国・県と同等であるが、単位量当たりの大きさを求める除法の問題で、全国や県平均より10ポイント以上低かった。調査Bでは、どの問題も全国・県より若干低い程度であった。さらに、算数的活動やICTの利活用等、児童の主体的学習を高める手立てが必要である。

#### 図形

・調査Aの空間の中にあるものの位置を表現する問題は、全国や県より10ポイント以上高く、よくできている。反対に円周率の意味に関する問題は、8ポイント以上低い。調査Bでは、集まった角の大きさの和が $360^\circ$ になることを記述する問題が全国や県平均より4ポイント程度低くなっている。今後は、具体的な操作活動に加え、思考力を高めるための問題づくりや授業の工夫が必要である。

#### 数量関係

・調査Aは、全国・県とほぼ同等という結果であった。調査Bでは、棒グラフと帯グラフから読み取り適切に判断する問題が、全国や県平均より7ポイント近く低くなっている。グラフの読み取りに加え、それを使って考える力を高める指導を充実させる必要がある。

### (3) 学力向上のための取り組み

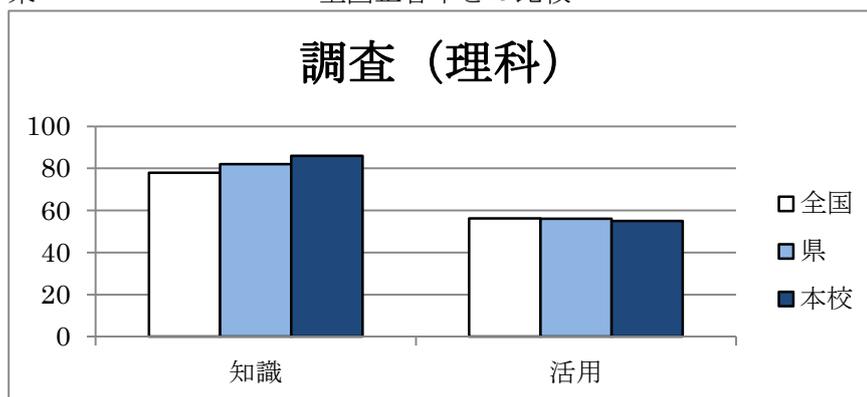
- 学校では、基礎・基本の定着を主な目的とし、朝のスキルタイム(木)に取り組んでいます。4年生までは、計算問題を中心としたプリントを、5～6年生は「佐賀すくすくテスト」を活用するなど基本的な計算力の定着を図っています。月の第1・3週を計算等基礎・基本的な問題に、第2・4週を「活用力」の問題に取り組み、思考力の向上を目指しています。
- 記述式問題の正答率が低いことを受け、日々の授業では、自分の考えを伝え合う場をより多く設定することで、児童同士が互いに学び合う授業づくりをして思考力の向上に努めます。

- ご家庭では、毎日の宿題(計算ドリルや算数プリントなど)やテスト(単元ごとの)などお子さんが何を学習されているか、どのくらい理解できているか、時々見てあげてください。家族の温かい見守りと励ましの言葉は、お子さんの成長に欠かすことができないもので、何よりの意欲付けになります。
- 算数で習った内容は、身近な生活に役立つものです。親子の会話の中にもどんどん取り入れていきましょう。ちょっと意識するだけで、算数好きになるきっかけができるはずです。

### 3 理科

#### (1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問う問題では、A 区分（物質・エネルギー）、B 区分（生命・地球）ともに全国平均及び県平均を上回っている。活用力を問う問題では、全国・県平均よりやや下回っている。

#### (2) 成果と課題

##### A区分(物質・エネルギー)

・食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く問題では、水の蒸発に関する内容を示すものや食塩水の水を蒸発させた操作を示す誤答が多くみられた。学習のめあてについて何について調べるか、結果がどうなるかを個人やグループで話し合うなど予想を立て実験についてよく理解させた上で取り組ませることが必要である。

##### B区分(生命・地球)

・一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの斜面の削られ方を選び、選んだわけを書く問題では、溝の曲がっているところの外側と内側の両方とも棒が倒れたことなど実験結果について書いた誤答が多かった。実験で比べる点やその結果とそこから何が言えるのかをしっかりと考えさせていくことが大切である。

#### (3) 学力向上のための取り組み

- 学校では、単に実験や観察をさせるのではなく、前の時間とのつながりを大切に今日の授業で何をするのか授業のめあてを明確にして授業を進めていきます。また、子どもたちが生活している場面や経験を授業に生かすことで関心を持って授業に取り組めるようにします。
- 活用力に関する問題の正答率がやや低いことを受け、実験や観察を伴う授業において、何についてどのようにして調べたらよいか等計画段階で十分に考えさせて取り組ませます。また、表やグラフ等のデータを基に考えさせるなど授業を工夫し、根拠を持って自分の考えを持てるようにします。

■ご家庭では、テレビのニュースや新聞など日常生活に関する問題などを取り上げて、話題にしていただけたらと思います。お子さんが、生き物や自然のことで話をした時は、是非じっくりと話を聞いてやって下さい。自然や科学についての興味や関心が高まり、自分で調べたり、観察したりして疑問に思ったことを解決しようという素地が育っていくと思います。

## 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

### (1) 結果

《生活習慣について・・「はい」「どちらかといえば はい」の割合》

調査項目	本校%	全国平均%
毎日同じくらいの時刻に起きている。	93.4	88.8
毎日おなじくらいの時刻に寝ている。	82.9	77.0
朝食を毎日食べている。	98.7	94.5
平日読書を30分以上している。	47.4	41.0
平日読書はまったくしない。～10分未満	32.9	33.6

「同時刻に起きる・寝る、朝食をとる」の3項目とも、全国平均より高く、昨年度より改善していることが分かる。この3項目の中で、寝る時刻が全国より高いものの90%を超えるまでに至っていない。今後も、学校全体の取り組みとして、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムの定着をめざし継続して指導・啓発いくことが大切である。また、「平日読書をまったくしない」割合が昨年度は50%であったが、今年度は、30%台になっていることから改善してきていると考えられる。今後も学校と家庭がさらに連携して取り組みながら子どもたちの生活習慣の定着を図っていく必要がある。

《家庭学習の様子・・「はい」「どちらかといえば はい」の割合》

調査項目	本校%	全国平均%
平日2～3時間勉強している。	19.8	16.5
平日1～2時間勉強している。	42.1	36.9
平日0～1時間勉強している。	34.2	31.2
家で学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	96.0	97.1
家で授業の予習復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	71.1	62.6

家庭での学習時間は、全国の状況と比べて若干長くなっていることから少しずつ家庭での学習が習慣化してきていると思われる。小中連携で取り組んでいる「家庭学習がんばり週間(年間4回)」等、今後も継続して取り組み、家庭学習の習慣化を図っていきたい。

### (2) 改善に向けての取り組み

- 学校では、毎日「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出しています。授業で学習した基本的な内容や必ず身に付けておきたい内容を課題として取り組ませています。現在、自主学习(自学)については、3～6年で学年に応じた内容で取り組んでいるところです。
- 学習規律の定着に力を注いでいます。H29より、毎朝8時15分に全校一斉の「立腰タイム」を取り入れ、授業中の学ぶ姿勢にも意識するよう指導しています。学習用具等についての基本的な事柄等「開成っこ学びのスタイル」を全教室に掲示し、意識付けを図っています。学習規律の定着を目指し、落ち着いたある態度の定着を図ります。
- 教室の環境整備に努めています。掲示物など刺激になりやすいものは、整理して掲示するなど学習環境のユニバーサルデザイン化を進めていきます。また、1～6年生までの学習内容のポイントを掲示した「算数ルーム」を作り、子どもたちがいつでも見られるような環境づくりに取り組んでいます。

- ご家庭では、確実に家庭学習の習慣を身につけていきましょう。「家庭学習がんばり週間」等を利用して、宿題や予習、復習を含む自主的な学習、翌日の学習道具の準備などに自分から取り組めるようご家族の協力をお願いします。
- 家庭学習の時間にテレビやゲームなど音が出るものは、気が散って学習の妨げとなります。効果的な家庭学習には家族の協力が必要となります。静かな環境で学習に取り組めるようご家族の協力をお願いします。また、読書など少しの時間でもいいですので文字に触れさせていただきたいと思えます。